

和泉葛城山の昆虫（2019-2020 年度調査）

岩崎 拓（CB 大阪）

はじめに

和泉葛城山の山頂付近の昆虫相を明らかにするため、2008 年に予備的な調査を開始し、2009 年以降は 4 月から 12 月まで毎月 1 回の割合で定期的な調査を行ってきた。これまでに確認された大阪府レッドリスト種（大阪府、2014）は 29 種を数え（岩崎、2022）、その他にも、貝塚市内において和泉葛城山の山頂付近でしか確認されていない種も多く、貝塚市の昆虫相を豊かにしている地域であると言える。2019-2020 年度も引き続き、昆虫相全般を対象にした調査を行ったので、ここに報告する。

調査方法

2019 年と 2020 年の 4 月から 12 月にかけて、毎月 1 回、雨でない日を選んで調査を行った。山頂付近（標高 820～858 m：メッシュコード 51354314-15：図 1、2）を約 3 時間かけて歩き、目視あるいは鳴き声等によって種の確認を行った。調査における周回ルートは、天然のブナ林を含み、大阪府貝塚市と岸和田市、および和歌山県紀の川市にまたがる。

目視で同定可能な種は記録するか写真撮影に留め、同定が困難な種や貝塚市立自然遊学館（以下、自然遊学館）に標本のない種等を採集し、自然遊学館の所蔵標本とした。

今回の調査結果の一部は、自然遊学館の季刊誌である「自然遊学館だより」において報告している（岩崎、2020、2021）。

結果および考察

2019 年と 2020 年の調査で確認された昆虫を、大阪府レッドリスト種、貝塚市内での分布が和泉葛城山の山頂付近にほぼ限られる山地性の種、自然遊学館に標本がなかった種や、増加傾向にある平地にも生息する種などに関して、それぞれの目ごとに解説を行った。また、必要に応じて、自然遊学館がこれまでに収集・所蔵してきた貝塚市産昆虫標本のデータとの比較を行った。

本文中の表記では、年月のみを使用した。各月の調査日（および学名）に関しては、以下の表、および巻末に掲載した各調査日の調査速報を参照いただきたい。



図 1. 山頂付近の登山道 2020. 5. 14



図 2. 山頂付近の登山道 2020. 11. 6

トンボ目

大阪府レッドリスト種として、2019年8月と2020年8月にミヤマアカネ（図3）、2019年10月にアキアカネを確認した。いずれもランクは準絶滅危惧である。ミヤマアカネは2015年から6年連続で夏期に確認されている。特に、2019年8月の調査では4個体が確認され、1回の調査日の記録としては最多となった。アキアカネは、2019年10月の確認時に、10個体以上のメスが、ウスバキトンボと混群を作っていた。たまに枝先などに止まる個体を撮影しての確認なので、オスがいたかどうかは不明である。また、ウスバキトンボは2020年の9月に100個体以上の群れで飛翔していた。



図3. ミヤマアカネ
2019. 8. 13

バッタ目

大阪府レッドリスト種としては、絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴを2019年、2020年の両年とも、6月、7月、8月に確認した。調査開始以来、13年連続の確認である。準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキは2019年8月と9月に確認したが（図4）、2020年はまったく確認されず、2009年以来11年連続で確認してきて安定的に個体群が保たれていると考えてきたのに、残念な結果となった。



図4. ヒトコブササキリモドキ
2019. 8. 13

表1と表2に、2019年と2020年それぞれのバッタ目昆虫のリストを示した。ホソクビツユムシは個体数が増加傾向にあるのに対して、アシグロツユムシは減少傾向にあり、2020年は、

表1. 和泉葛城山山頂付近において2019年4月から12月にかけて確認されたバッタ目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 18日	5月 7日	6月 6日	7月 16日	8月 13日	9月 5日	10月 10日	11月 7日	12月 5日
カマドウマ科	マダラカマドウマ	<i>Diestrammena japonica</i>							△			
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>			△	△	○	○	○			
	キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>						○	○			
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>					△		○			
ツユムシ科	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>					○	○	○			
	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>					△	△	△			
	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>						○	○			
ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>						○	○			
コオロギ科	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>						○	○	○	○	
マツムシ科	カンタン	<i>Oecanthus indicus</i>						○	○	○	○	
	アオマツムシ	<i>Trujalia hivinonis</i>								○		
ヒバリモドキ科	クサヒバリ	<i>Sivistella bifasciata</i>							○	○	○	
	マダラスズ	<i>Pteronemobius nigrofasciatus</i>					○				○	
バッタ科	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>			△	△	△	○	○	○	○	
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>				○	○	○				
	ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>					△○	○	○			
	ヒロハネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>				△	○		○	○		
ヒシバッタ科	モリヒシバッタ	<i>Tetrix silvicultrix</i>					○					
	ヒシバッタ属	<i>Tetrix</i> sp.					△		△			

表2. 和泉葛城山山頂付近において2020年4月から12月にかけて確認されたバッタ目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				16日	14日	4日	16日	7日	15日	6日	6日	1日
カマドウマ科	ハヤシユマ	<i>Diestrammena itodo</i>									△	
コロギス科	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>			△	△						
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>				△	○					
	キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>			△							
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>				△	○	○				
ツユムシ科	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>					○		○			
コロギス科	モリオカメコロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>							○	○	○	
マツムシ科	カンタン	<i>Oecanthus indicus</i>									○	
	アオマツムシ	<i>Trujalia hivinonis</i>							○			
ヒバリモドキ科	クサヒバリ	<i>Sivistella bifasciata</i>							○	○	○	
	マダラスズ	<i>Pteronemobius nigrofasciatus</i>							○	○	○	
バッタ科	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>			△	△	△○	○	○	○		
	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>								○	△	
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>			○	△○	○					
	ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>				△○	○	○	○			
	ヒロバネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>						○	○	○	○	○

まったく確認されなかった。アシグロツユムシは山頂付近の「普通種」とも言うべき存在であったのに、この急激とも言える減少には、環境の変化か、同じツユムシ科のホソクビツユムシとの種間関係のどちらが重要な影響を与えているのか注視する必要がある。平地の樹上優占種であるアオマツムシは、2017年以降、4年連続の確認となり、山頂付近で定着した可能性が高い。

環境の変化で考えられるのは気温の上昇であるが、山頂の神社付近での10年間の計測（9調査日の平均気温）では増加傾向が認められなかったのに対して、ブナ林内でのデッキでは1.5℃ほどの漸増傾向が認められた。ただし、調査日の天候や1ヵ月内の日付が一定でないことなども含めて、詳細な記録と解析は他に譲りたい。

他の直翅類

カマキリ目に関しては、2008年の調査開始以降、オオカマキリしか確認していない。和歌山県側の草原が主な生息場所であると考えられ、調査区域の南端での確認となる。個体数は増加傾向にあるが、平地から丘陵地にかけての優占地に比べて、密度は低い。

ナナフシ目で一番目にする頻度が高いのはエダナナフシで、ほぼ毎年見られ、2019年8月、および2020年6月と7月（いずれも幼虫）で確認されている。ニホントビナナフシは平均すれば2年に1回の確認で、2019年7月に幼虫が確認された。

ハサミムシ目に関しては、2019年6月にコブハサミムシを確認した（図5）。



図5. コブハサミムシ
2019. 6. 6

カメムシ目

セミ科は、2019年に8種、2020年に6種を鳴き声で確認した（表3、4）。このうち、エゾゼミとハルゼミは大阪府レッドリスト準絶滅危惧であるが、2008年の調査開始以降、毎年確認されてい

る。ハルゼミに関して、2019年6月の調査では30個体以上の鳴き声が確認され、1調査日での最多であった。2016年に確認されたクマゼミは4年連続で確認されず、山頂付近で定着していない可能性が高い。その他、ヨコバイ亜目では、2020年7月にクルミヒロズヨコバイが初めて確認された。

表3. 和泉葛城山山頂付近において2019年4月から12月にかけて確認されたセミ科

「○」印は、鳴き声での確認を示している。

種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			18日	7日	6日	16日	13日	5日	10日	7日	5日
エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>					○	○	○			
アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>							○			
ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>						○	○			
ニイニイゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>						○				
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>				○*						
ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>						○	○			
ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>					○					
チツチゼミ	<i>Kosemia radiator</i>							○			

* 6月6日のハルゼミは、30個体以上の鳴き声を確認

表4. 和泉葛城山山頂付近において2020年4月から12月にかけて確認されたセミ科

「○」印は、鳴き声での確認を示している。

種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			16日	14日	4日	16日	7日	15日	6日	6日	1日
エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>					○	○	○			
ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>						○	○			
ニイニイゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>						○				
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>			○*	○*						
ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>							○			
ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>					○	○				

* ハルゼミの鳴き声は、5月14日が5個体、6月4日が16個体であった

2017年と2018年に確認した主なカメムシ亜科のリストを、それぞれ表5と表6に示した。ツノカメムシ科は、2017年に4種、2018年に3種を確認された。このうち、ベニモンツノカメムシは確認頻度が低い種である(2009年と2015年、図6)。

山地性のカメムシ科として注目しているトゲカメムシ、トホシカメムシ、ツマジロカメムシのうち、両年とも確認されたのはトホシカメムシのみであった。ツマジロカメムシはこれまで山頂の「普通種」だと認識していたのに、2016年に続き、2020年も確認されなかった。ツノアオカメムシ、エゾアオカメムシ、ミヤマカメムシは、2019年、2020年とも確認されなかった。

アカスジキンカメムシは、2020年10月に初めて確認された(幼虫、図7)。自然遊学館にある標本では、蕎原地区の標高がせいぜい400m程度までの地点のものがほとんどで、山頂付近のものはなかった。

反対に、チャバネアオカメムシは、以前は毎年見られる種で



図6. ベニモンツノカメムシ
2019. 8. 13



図7. アカスジキンカメムシ幼虫
2020. 10. 6

はなく、確認年でもせいぜい1個体であったのが、2017年以降、4年連続で確認され、1調査日で複数個体が確認されたこともあり、個体数は増加傾向にある。

表5. 和泉葛城山山頂付近において2019年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ亜目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 18日	5月 7日	6月 6日	7月 16日	8月 13日	9月 5日	10月 10日	11月 7日	12月 5日
ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>		○				○		○	○	
	モンキツノカメムシ	<i>Sastragala scutellata</i>									○	
	ベニモンツノカメムシ	<i>Elasmostethus humeralis</i>						○				
	ハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma labiduroides</i>									○	
カメムシ科	ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>		○								
	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha picus</i>					△					
	トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>		○				○				
	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>					○					
	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>								○	○	
	クチブトカメムシ	<i>Picromerus lewisi</i>						△				

表6. 和泉葛城山山頂付近において2020年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ亜目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 16日	5月 14日	6月 4日	7月 16日	8月 7日	9月 15日	10月 6日	11月 6日	12月 1日
ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>			○					○	○	
	モンキツノカメムシ	<i>Sastragala scutellata</i>					○					
	エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>						○				
クヌギカメムシ科	クヌギカメムシ	<i>Urostylis westwoodi</i>			○							
キンカメムシ科	アカスジキンカメムシ	<i>Poecilocoris lewisi</i>								△		
カメムシ科	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha picus</i>								△○	○	
	ホオズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i>			○							
	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>					○	○	○			
	トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>					○				○	
	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>			○			○		○		

コウチュウ目

大阪府レッドリスト種では、準絶滅危惧のイワキセダカコブヤハズカミキリが2019年6月に（図8）、セダカテントウダマシが2020年7月に確認された。

自然遊学館に標本がなかった種として、2019年4月にキベリチビケシキスイとキスイモドキ、同5月にヒメジョウカイとメダカヒシベニボタル、同10月にピックオビハナノミ、および2020年10月にムモンオオハナノミを確認した。

2019年8月にブナの立枯れ木に、ヒゲナガゴマフカミキリが10個体ほど密集していた。



図8. イワキセダカコブヤハズカミキリ
2019. 6. 6

チョウ目

2019年に確認されたチョウ類の成虫は31種、2020年は27種であった（表7、8）。大阪府レッドリスト種は、ガ類も含めて確認されなかった。両年とも、テングチョウの6月の群飛では、300個体以上が確認された。

表7. 和泉葛城山山頂付近において2019年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

科	種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
				18日	7日	6日	16日	13日	5日	10日	7日	5日	
アゲハチョウ科	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>						○	○				
	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>							○				
	クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>						○					
	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>				○							
	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous alcinous</i>				○							
シロチョウ科	カラサアゲハ	<i>Papilio dehaanii</i>				○		○					
	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>				○	○	○	○				
	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina mandarina</i>	○			○	○	○	○	○			
	タテハチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>		○				○				
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>				○		○	○	○			
タテハチョウ科	コムスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>				○							
	アサマイチモンジ	<i>Limenitis glorifica</i>				○							
	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana</i>							○				
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>					○			○			
	ヒメアカタテハ	<i>Vanessa cardui</i>							○				
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>	○								○		
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>	○										
	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>	○			○		○					
	インガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas</i>							○				
	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>				○		○	○	○			
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>					○	○	○	○			
	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>					○				○		
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>	○			○*	○				○	○	
	シジミチョウ科	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>		○								
		ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>				○						
ウラナシジミ		<i>Lampides boeticus</i>								○			
ムラサキシジミ		<i>Narathura japonica</i>				○							
ベニシジミ		<i>Lycaena phlaeas daimio</i>					○						
セセリチョウ科	チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>							○	○			
	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus flavus</i>					○			○			
	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>				○			○				

* 6月6日のテングチョウは、300個体以上の群飛を確認

表8. 和泉葛城山山頂付近において2020年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

科	種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
				16日	14日	4日	16日	7日	15日	6日	6日	1日	
アゲハチョウ科	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>							○				
	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>			○								
	クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>			○			○					
	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>				○							
	モンキアゲハ	<i>Papilio helenus</i>					○	○					
シロチョウ科	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous alcinous</i>				○			○				
	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>				○	○	○	○				
	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i>				○							
	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina mandarina</i>				○		○	○	○			
	タテハチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>						○				
タテハチョウ科	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>				○		○		○			
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>				○			○				
	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana</i>					○						
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>									○		
	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>	○										
	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>						○	○	○			
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>				○	○	○	○		○		
	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>				○			○				
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>	○			○*			○	○	○		
	シジミチョウ科	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta</i>						○				
		ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>								○	○	○
		ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i>							○	○		
		ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>		○								
		セセリチョウ科	チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>					○				
	セセリチョウ科	コチャバネセセリ	<i>Thoressa varia</i>					○					
キマダラセセリ		<i>Potanthus flavus flavus</i>					○						
ダイミョウセセリ		<i>Daimio tethys</i>							○				

* 6月4日のテングチョウは、300個体以上の群飛を確認

大阪府レッドリスト種など

2008年の調査開始以降に確認された大阪府レッドリスト種を表9に示した。2019年と2020年の調査で新たに追加確認された種はなかった。

表9. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2020年にかけて行われた調査で確認された大阪府レッドリスト種

ランク	目	科	種	学名	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
絶滅危惧Ⅰ類	バッタ目	マツムシ科	カヤコオロギ	<i>Euscirtus japonicus</i>	○												
絶滅危惧Ⅱ類	バッタ目	バッタ科	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			セグロイナゴ	<i>Shirakiacris shirakii</i>			○										
	カメムシ目	ヨコバイ科	テングオオヨコバイ	<i>Tengirhinus tengu</i>	○	○				○							
	コウチュウ目	コガネムシ科	ムネアカセンチコガネ	<i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i>					○								
準絶滅危惧	トンボ目	アオイトトンボ科	オツネントンボ	<i>Sympetma paedisca</i>			○	○					○				
		ムカシトンボ科	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>			○										
		ヤンマ科	オオルリボシヤンマ	<i>Aeschna nigroflava</i>									○				
		トンボ科	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>			○					○	○	○	○	○	○
			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>			○								○	○	
	バッタ目	ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	カメムシ目	セミ科	ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		アメンボ科	ヤスマツアメンボ	<i>Gerris insularis</i>									○				
	コウチュウ目	クワガタムシ科	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis angularis</i>	○		○	○									
		テントウムシ科	セダカテントウムシ	<i>Bolbomorphus gibbosus</i>		○	○	○	○	○	○	○					○
		テントウムシ科	シロジュウゴホシテントウ	<i>Calvia quindecimguttata</i>									○	○			
		カミキリムシ科	イワワキセダカコブヤハズカミキリ	<i>Parechthistatus gibber shibatai</i>									○				○
	チョウ目	タテハチョウ科	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda charonda</i>						○							
			スミナガン	<i>Dichorragia nesimachus nesiotis</i>				○			○						
			ミスジチョウ	<i>Neptis philyra excellens</i>							○		○				
		セセリチョウ科	アオバセセリ	<i>Choaspes benjaminii japonica</i>								○	○	○			
			ホンバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>				○	○	○	○						
		ヤマユギ科	エゾヨツメ	<i>Aglia tau microtau</i>				○									
		シャチホコガ科	フナアオシャチホコ	<i>Syntypistis punctatella</i>									○		○		
情報不足	アミメカゲロウ目	クシヒゲカゲロウ科	クシヒゲカゲロウ	<i>Dilar japonicus</i>													○
	コウチュウ目	コメツクムシ科	トラフコメツク	<i>Selatosomus onerosus</i>				○									
			ルリツヤハダコメツク	<i>Hemicrepidius subcyaneus</i>				○									
	ハチ目	ミツバチ科	クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>	○	○	○	○						○			○

イワワキセダカコブヤハズカミキリは、これまで、セダカコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber gibber* として発表してきたものです。

毎年確認されている種としては、絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴ、準絶滅危惧のハルゼミとエゾゼミがあげられる。ハルゼミは、平地や丘陵地での鳴き声を聞く回数が減っているのに対して、山頂付近では、1調査日に鳴いている個体数が増加傾向にある。ミヤマアカネも8月に見る機会が確実にになっている。以上の種に加えて、セダカテントウムシ、イワワキセダカコブヤハズカミキリ、クロマルハナバチなどが、増減なしという印象である。また、ムカシトンボやミスジチョウなど、山頂付近よりも谷筋の方で、よく見られる種もいる。それら以外の種の存続は、飛翔力の高い種を除いて、危ういものかもしれない。

その他、山地性や、貝塚市内でこれまでの記録が和泉葛城山の山頂付近に限られるという種、あるいは2014年の大阪府レッドリストの改訂においてランク外とされた種、和歌山県のレッドリスト種などを注目種とし、それらの確認年を表10に示した。

例えば、バッタ目では、チビクチキウマとエゾツユムシを5年間、確認していない。ヒメクサキリは6年間である。表にはあげていないがヒメツユムシも、かつては山頂や山麓での「普通種」であったのに、減ってしまった。先に述べたアシグロツユムシもそうである。昆虫ではないが、調査時に山頂付近でトノサマガエルを見かけるようになったと書けば、「妙な」事態が進行していることは容易に推測される。

表10. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2020年にかけて行われた調査で確認された注目種

目	科	種	学名	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
バッタ目	カマドウマ科	チビクチキウマ	<i>Anoplophilus minor</i>					○	○	○	○						
	キリギリス科	ヒメクサキリ	<i>Ruspolia dubia</i>	○	○	○	○		○	○							
	ツユムシ科	エソツユムシ	<i>Kuwayamaea sapporensis</i>						○								
ナナフシ目	ナナフシ科	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>				○	○				○	○	○	○	○	
		ニホントビナナフシ	<i>Micadina phluctainoides</i>			○		○	○	○	○					○	
ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	エソハサミムシ	<i>Eparchus yezoensis</i>						○	○							
		コフハサミムシ	<i>Anechura harmandi</i>					○		○	○					○	
カメムシ目	アワフキムシ科	テングアワフキ	<i>Philagra albinotata</i>	○					○	○							
		オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>	○	○		○	○			○		○			○	
	サシガメ科	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>	○	○	○				○	○	○	○	○			
		エソアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>			○	○			○				○			
	カメムシ科	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>	○	○		○	○	○			○	○				○
		ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		
		ミヤマカメムシ	<i>Hermolaus amurensis</i>			○		○				○					
トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>	○	○			○		○			○	○	○	○			
ヨツボシカメムシ	<i>Homalogonia obtusa</i>			○													
コウチュウ目	クワガタムシ科	アカアシクワガタ	<i>Nipponodorcus rubrofemoratus</i>						○								
		ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculifermoratus</i>	○	○			○									
		ハスジソウムシ	<i>Cleonus japonicus japonicus</i>	○													
ハエ目	ハナアブ科	ニトベッコウハナアブ	<i>Volucella linearis</i>								○						
チョウ目	タテハチョウ科	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>				○	○	○	○		○		○	○		
		アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ハチ目	ヤママユガ科	ヒメヤママユ	<i>Caligula jonasii jonasii</i>				○								○	○	
		シダクロスズメバチ	<i>Vespa shidai</i>	○	○				○	○	○						
	スズメバチ科	キオビホオナガスズメバチ	<i>Dolichovespula media</i>						○			○					
ミツバチ科	オオマルハナバチ	<i>Bombus hypocrita hypocrita</i>			○				○								

謝辞

キベリチビケシキスイ、キスイモドキ、メダカヒシベニボタルなどコウチュウ目標本の同定のチェックをしていただいた澤田義弘氏、およびイワワキセダカコブヤハズカミキリに関する情報をご教示いただいた中村進氏に謝意を表す。

引用文献

- 岩崎 拓 (2020) 和泉葛城山昆虫調査 2019. 自然遊学館だより No. 95 : 17-19.
 ホソクビツユムシに関して、4月幼虫・7月・9月の確認は誤りで、7月・8月・9月が正しい
 ヒオドシチョウに関して、4月のみの確認は誤りで、6月と8月が記載もれ
 ジャコウアゲハに関して、6月の確認が記載漏れ
- 岩崎 拓 (2021) 和泉葛城山昆虫調査 2020. 自然遊学館だより No. 99 : 14-16.
- 岩崎 拓 (2022) 和泉葛城山の昆虫 (2017-2018 年度調査) . 貝塚の自然 第 22 号 : 52-65.
- 大阪府 (2014) 『大阪府レッドリスト 2014』, 48pp.

付図

毎月の調査後すぐに、気候や他の動植物の状況も含めて、調査速報を作成した。それらを付図として以下に掲載した。

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2019年4月）

2019年4月18日 天候：晴れ 調査者1名

多くの樹々は芽吹いたばかりです。林道脇では、ミヤマシキミ、ヤマハリソウ（右の写真）、ユリウサビ、シハイスマシの花などが目立ちます。虫のシーズンはまだ先のようです。鳥のさえずりがよく聞こえました。



チョウ目 チョウ類5種

ヒオドシチョウのオスが山頂の神社でなわばりを作っていました。キタキチョウ、テングチョウ、キタテハ、ルリタテハを合わせて、合計5種のチョウを確認しました。いずれも成虫で冬を越す種ですが、翅の傷み具合がバラバラなのが興味深いです。



ヒオドシチョウ

カメムシ目

越冬明けのトホシカメムシを見て不思議な気がしました。秋に見ることが多いからです。でも、オオトビサシガメにしろ、セアカツノカメムシにしろ、成虫で越冬するので、何ら不思議ではありません。その他、ミヤマアワフキやミツボシツチカメムシなどを確認しました。



トホシカメムシ

その他の昆虫

クスイモドキとケバチチビクシクスイは、これまで自然遊学館に標本がなかった種です。澤田義弘さんに同定していただきました。その他、コウチュウ目ではマダラカミキリモドキ、ハエ目ではピロウドツリアブ、ハチ目ではニホンミツバチなどを確認しました。



不明ゴミムシ

鳥類

昆虫が少なかったため、鳥の紹介です。右の写真は、アカマツの枯れた幹にコゲラが巣を作っているところです。チドリノキのカーブでは、3日前の鳥調査時と同じく、コマドリの鳴き声を聞きました。その他、センダイムシクイ、アオバト、ツツドリなどの鳴き声を聞きました。



コゲラの巣

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2019年5月）

2019年5月7日 天候：晴れ 調査者1名

新緑が美しいのは良いのですが、思いのほか北風が冷たく、正午の林内の気温は9℃でした。チゴユリ（右の写真）、ユキザサ、ニリンソウ、ミヤマハコベなどが咲いていましたが、訪花昆虫はわずかでした。



チョウ目 チョウ類2種

チョウ類がヤマトシジミとヒメウラナミジャノメの2種だけとはガッカリです。ガ類も、写真のサッポロヒゲナガと、ウリハダカエデの葉裏にヒメヤママユの幼虫を見つけただけでした。撮影できなかったミドリヒゲナガらしき種は、除外扱いにしました。



サッポロヒゲナガ

コウチュウ目

ウリハダカエデの葉上にドロハマキチョッキリを4個体確認しました。美しい種で撮影もしましたが、掲載画像には当館に標本がなかったヒメジョウカイを採用しました。珍しい種ではありません。ニセクロホシテントウゴミムシ、タマシヤリソウゴキソウムシなども確認しました。



ヒメジョウカイ

ハチ目

花が少ないのでハナバチ類も少なくヒメハナバチ属の仲間だけを確認しました。アリ類の活動もまだまだで、ハヤシクロヤマアリを含む6種を確認しました。写真はクリタマバチがクヌギに作ったクリメコブズイフシという虫ごぶ（虫えい）です。



クリメコブズイフシ

その他の昆虫

バッタ目2種、カメムシ目4種、ハエ目4種という結果は、5月の調査としては寂しいものです。しかも一番たくさんいたハエは、自分が同定できないものでした。写真は、イロハカエデに付いていたモミジニタイケアブラムシの由来立てのコロニーです。



モミジニタイケアブラムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2019年6月）

2019年6月6日 天候：晴れ 調査者1名

樹々の葉が茂り出し、ブナ林の中は先月よりもかなり暗くなりました。林縁で咲いている花は、ウツギ、スイカズラ、ノイバラの仲間が目立つ程度です。林内でカキノハグサ（右の写真）を見つけました。



チョウ目 チョウ類14種

カラスアゲハ、オナガアゲハ、ジャコウアゲハ、キタキチョウ、スジグロシロチョウ、クロヒカゲ、コムスジ、アサマイチモンジ、ヒオドシチョウ、ミドリヒョウモン、テングチョウ（300匹以上）、ルリシジミ、ムラサキシジミ、ダイミョウセセリを確認しました。



ダイミョウセセリ

バッタ目など

バッタ目の成虫はナキイナゴが少し、幼虫はヤブキリ、ヒロハネヒナバッタ、ヤマトマダラバッタを確認しました。まだバッタのシーズンではありません。バッタ目に近い仲間では、コバハサミムシを確認しましたが、カマキリの仲間の幼虫はまったく見ませんでした。



コバハサミムシ

カメムシ目

先月は聞かなかったハルゼミの鳴き声を30匹以上は聞きました。いつもアカマツの高い位置で鳴いているので姿を見たことはなかったのですが、この日は意地でも見てやろうと気合が入りました。何とかオス1匹を撮影できたものの、かなりのピンボケでした。



ハルゼミ

コウチュウ目

20種以上確認しました。右の写真は、注目種のイワキセダカコバハサカミキリで、伐採されたブナの放置枝に来ていました。その他、センチコガネ、ヒメテオキノコムシ、ウバタマムシ、アオジョウカイ、クワサビカミキリ、コブラリオトシムシなどを確認しました。



イワキセダカコバハサカミキリ

付図1（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2019年4月）

付図2（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2019年5月）

付図3（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2019年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2019年7月）

2019年7月16日 天候：くもり 調査者1名
 典型的な梅雨時の山頂の様子で、途中、霧が立ち込め、林内も暗く、気温が18℃台と涼しいことだけが救いでした。その分、カタツムリ類の活動は盛んで、ブナの立ち枯れ木で久々にオオギセル（右の写真）を見ました。



チョウ目 チョウ類7種
 チョウ類は、キタキチョウ、スジグロシロチョウ、アカタテハ、ツマグロヒョウモン、テングチョウ、アサギダラ、キマダラセセリを確認しました。いずれも個体数は1～2でした。カ類では、石段上の小屋内でオオシマカラスヨトウを確認しました。



アカタテハ

バッタ目
 ナキイナゴは先月に引き続き、鳴き声をいくつか聞きました。先月は幼虫で確認したヤブキリ、ホソクビツユムシ、ヒロバナヒナバッタ、ツマグロバッタは、成虫になっていました。ヒメギス、アシグロツユムシ、ヤマトフキバッタは、まだ幼虫でした。



ナキイナゴ

カメムシ目
 先月は盛んに鳴いていたハルゼミはいなくて、エソゼミとヒグラシが少し鳴いていました。ツマジロカメムシは交尾ペアを確認しました。その他、コガシラウンカ、モンキクロカスミカメ、クサギカメムシ幼虫、ハリカメムシなどを確認しました。



モンキクロカスミカメ

コウチュウ目
 獣糞にセンチコガネとクロボシヒラタシテムシがたかっています。ヘリグロリンゴカミキリがアザミ類の花に来ることは、後で調べてから分かりました。右の写真は、これまで自然遊学館に標本がなかったビックオビハナノミです。ハナノミとしては大型の部類に入ります。



ビックオビハナノミ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2019年8月）

2019年8月13日 天候：くもり・晴れ 調査者1名
 台風10号が接近中で、湿度が高く、正午過ぎの気温は32℃を超えていました。8月の山頂のミヤマアカネは定番ですが、今回は4個体を確認しました。ウスバキトンボとシオカラトンボの数も例年以上でした。



チョウ目 チョウ類10種
 4個体のキアゲハが山頂神社のギャップで縄張り争いをしているのが印象的でした。その他、クロアゲハ、カラスアゲハ、キタキチョウ、スジグロシロチョウ、クロヒカゲ、ヒオドリチョウ、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、ベニシジミを確認しました。



キアゲハ

バッタ目
 個体数が多かったのは、ツマグロバッタとヤマトフキバッタです。大阪府R.L.準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキは、3個体を確認しました。その他、ヤブキリ、キリギリス、ホソクビツユムシ、アシグロツユムシ幼虫、ナキイナゴは、いずれも1個体のみの確認でした。



ヒトコブササキリモドキ

カメムシ目
 エソゼミ、ニイニゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミが鳴いていて、この中ではエソゼミが最多でした。ベニモンツチカメムシは、2009年の標本が1個体しかないので、写真撮影だけで済ましてしまいました。その他、セアカツノカメムシやトホシカメムシを確認しました。



ベニモンツチカメムシ

コウチュウ目
 ブナの立ち枯れ木で、ヒゲナガゴマフカミキリを10個体ほど見ました。樹液の出ているヤマナラシの根元には、ウスバカミキリがいました。その他は、ニセクロボシテントウゴムシシダマシ、サビハネカクシ、カマワリ、ツブノミハムシなど、常連の種ばかりでした。



ヒゲナガゴマフカミキリ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2019年9月）

2019年9月5日 天候：くもり 調査者1名
 南風が吹き、湿度が高いのですが、時折、谷筋から涼しい風も吹き上げてきます。ポタンツル（右の写真）、ヒョドリバナ、イタドリ、カラムシ、ミスヒキ、などの花が咲いていました。



チョウ目 チョウ類13種
 チョウ類は、キアゲハ、ナミアゲハ、キタキチョウ、スジグロシロチョウ、ヒメウラナミジャノメ、クロヒカゲ、サカハチチョウ、イシガケチョウ、ヒメアカタテハ、ツマグロヒョウモン、ミドリヒョウモン、ダイミョウセセリ、チャバネセセリを確認しました。



サカハチチョウ

バッタ目
 一番個体数が多かったのはヤマトフキバッタでした。その他、マダラカマドウマ幼虫、ヤブキリ、キリギリス、ヒメギス、ホソクビツユムシ、アシグロツユムシ幼虫、ヒトコブササキリモドキ、モリオカメコオロギ、クサヒバリ、カンタン、ツマグロバッタを確認しました。



マダラカマドウマ幼虫

カメムシ目
 エソゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、チツチゼミが鳴いていましたが、いずれも撮影できずでした。この時期のカメムシ亜科は幼虫が多く、種名が分かったのはオオヘリカメムシだけでした。右の写真は中齢幼虫で、まだ前胸の左右前方への膨らみが少ししかありません。



オオヘリカメムシ幼虫

その他
 ウスバキトンボを50個体ほど見ました。トンボ目は、他にシオカラトンボとオオシオカラトンボだけで、平地の結果のようです。右の写真は、スジチャタテ幼虫の集団です。オオカマキリは1♂2♀。先月、ブナの立枯木に多数いたヒゲナガゴマフカミキリは、1個体のみでした。



スジチャタテ幼虫

付図4（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2019年7月）

付図5（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2019年8月）

付図6（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2019年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2019年10月）

2019年10月10日 天候：くもり 調査者1名

朝方の平地の涼しさから、山頂は寒いくらいかなと予想して行くと、汗ばむような陽気でした。フナ木の倒木には、毒キノコのツキヨタケ（右の写真）がびっしりと生え、多数のキイロセマルクシスイグが付いていました。



チョウ目 チョウ類11種

右の写真はイカリモンガという昼行性の方で、吸蜜の様子もチョウそのものです。イカリモンガ科は、アゲハモドキガ科よりも、チョウ類に系統が近いという研究があります。チョウ類は、アカタテハ、ミドリヒョウモン、アサギマダラ、テングチョウなど11種を確認しました。



イカリモンガ

カメムシ目

セミの鳴き声はまったく聞きませんでした。写真のホシアウフキは見慣れないもので、館に帰って記録を調べると、10年ぶりの確認でした。アカサシガメがナナホシテントウを捕食中でしたが、草の陰で良い写真が撮れませんでした。山地性の種をあまり確認できずに終わりました。



ホシアウフキ

ハチ目

アリ類の活動はかなり減りましたが、シワクシケアリやアミメアリは、石の下の群れを見ました。女王と思われる何匹かのオオスメハチが巣に適した場所を探していました。右の写真はクロマルハナバチのオスで、メスはコマルハナバチに似ているので、注意が必要です。



クロマルハナバチ

その他

山頂の広場で、ウスバキトンボとアキアカネが混ざって群れていました。アキアカネは、なぜかメスばかりでした。バッタ目では、樹上からクサビバリとアオマツムシの鳴き声が聞こえました。草上から聞こえるカンタンの鳴き声は、美声と呼んでいいと思います。



アキアカネ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2019年11月）

2019年11月7日 天候：晴れ・くもり 調査者1名

曇って風が吹くと寒いくらいの気候になりました。調査開始から「今日はダメだな」という感じてした。チョウもトンボも飛ばず、花も少なく、それでいて、フナ木のほとんどは緑色で葉があり、鳥の姿もあまり見通せません。



チョウ目 チョウ類1種

チョウ類は、テングチョウ1個体のみでした。ガ類もじっとしたままのケンモンミドリキリガとフクラスズメを1個体ずつ確認し、あとはヒメヤママユの前翅1枚を捨てただけでした。ケンモンミドリキリガは自然遊学館に標本がない種で、食樹はチドリノキだそうです。



ケンモンミドリキリガ

バッタ目など

鳴き声は、マダラスズを10個体程度は聞きましたが、モリオカメコオロギ、カンタン、クサビバリはそれぞれ1個体だけで、鳴き声も弱々しいものでした。ヤマトフキバッタも木柵に止まっていた1個体だけ、オオカマキリも右の写真の1♀だけの確認に終わりました。



オオカマキリ

カメムシ目

カメムシ目は成虫で越冬する種が多く、期待していたのですが、4種だけの確認となりました。そのうちの3種はツノカメムシ類で、モンキツノカメムシ、セアカツノカメムシ、ハサミツノカメムシを、すべて木柵上で確認しました。その他、チャバネアオカメムシだけは葉上にいました。



モンキツノカメムシ

ハエ目・ハチ目

右の写真の虫えいは、ヨモギシロケフシタマバエがヨモギに形成するものです。オオクロバエ、セスジハリバエ、ホソヒラタアブも含めて、平地にもいる種ばかりでした。ハチ目は、オオモンクローベッコウ、シワクシケアリ（石の下）、トラマルハナバチを確認しました。



ヨモギシロケフシタマフシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2019年12月）

2019年12月5日 天候：くもり 調査者1名

午前11時の気温が0.1℃でしたが、風が弱いので寒さはあまり感じませんでした。石の下や落葉の中、樹幹のすきまが頼りですが、昆虫は1種も確認できませんでした。以下、植物、キノコ、鳥、その他の動物の順に報告します。



植物

紅葉のシーズンは終わっていました。フナも落葉していました。紅葉の時期がいつだったのか、不思議なくらいです。花はまったく咲いていません。マムシグサの仲間の赤い実の塊が地面に落ちているだけでした。その分、ミヤコザサの元気が目立ちました。



ミヤコザサ

キノコ

写真はキヒラタケの幼菌です。普通種ですが、なぜか遊学館の貝塚市内の記録にありませんでした。その他、カワラタケ、アラゲカワラタケ、ツヤウチワタケ、ニクウスバタケ、ビョウタケといった馴染みのキノコを確認しました。これらはすべて腐朽材から生える種です。



キヒラタケの幼菌

鳥

樹木の葉が落ちて、鳥の写真を撮るのに良いシーズンになったのに、カワラヒワだけしか撮れませんでした。その他、コケラ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、シジュウカラ、ヤマガラ、アオジを確認しました。（トイレ前広場でカメラを構えている人はいませんでした）



カワラヒワ

その他の動物

石の下にヒメフナムシとヤチグモ属の幼体がありました。これまでの結果から、おそらくクロヤチグモだと思います。ヤスデの仲間もいましたが、こちらは科も分かりません。写真の糞は道の真ん中にあることとサイズから、おそらくテンのものだと思います。



たぶんテンの糞

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2019年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2019年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2019年12月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2020年4月）

2020年4月16日 天候：晴れ 調査者1名
 フナの花が咲き始めました（右の写真）。林内では、コバノミツバツツシのピンク色の花とタムシバの白い花が目立ちます。その他の木本では、ミヤマシキミの花が多く、林縁ではナガバモミジイチゴが少し咲いていました。



チョウ目 チョウ類2種
 4月のチョウの写真は、ヒオドシチョウがいれば、それに決まります。その他、テングチョウを確認しました。暖冬だったのに、4月に入って気温が上がらず、季節の進行は平年並みに戻った感じ。その他、種名が分からないガ類の成虫と幼虫を1個体ずつ確認しました。



ヒオドシチョウ

その他の昆虫
 昨年は同時期にカメムシ目を7種確認したのに、今年はゼロでした。アリ類は4種から6種に増えていて、グループによって違いがあります。コウチュウ目は平地にもいる種が3種だけ、ハエ目ではニセアシブトケバエが自然遊学館に標本がなかった種ですが、これも普通種です。



ニセアシブトケバエ

植物（草本）
 この時期は林床にも陽が差し、草本の花が楽しめます。登山道では、シハイスミレ、エイザンスミレ、ヤマネコノメソウ、タチネコノメソウ、ヨゴレコノメ、ユリウサビ、トウゴクサバナオ、ニリンソウなどを確認しました。車道脇では、フキのとうが立っていました。



ヨゴレコノメ

鳥類
 ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリの鳴き声が多く、ツツドリ、コジュケイ、ハシブトガラス、ウソ、オオアカガラ、メジロは1個体だけの確認でした。オオアカガラのシャッターチャンスがあったのに、すれ違う人があり、残念な思いをしました。



ヤマガラ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2020年5月）

2020年5月14日 天候：晴れ 調査者1名
 気温も上がってきて、チョウ類もたくさん飛んでいるだろうと思ってしまうと、それほどでもなく、他のグループも普通種が多く、なんだか冴えない調査になってしまいました。ウツギは開花せず。新緑が美しいことが救いです。



チョウ目 チョウ類4種
 チョウ類は、クロアゲハ、ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン、ルリシジミの4種で、これでは平地と変わらないどころか、平地以下でしょう。ヒメヤママユの中齢幼虫が、黒色に少し赤色が混じった若い齢の時から、終齢に近い緑色の時期の中間の色合いだと分かりました。



ヒメヤママユ幼虫

コウチュウ目
 種数はそれなりでしたが、常連の種がほとんどでした。右の写真は、シロシユウシホシテントウの紅型です。個体数が多かったのは、リンゴコフキソウムシです。センチコガネは死体を拾いました。シモフリコメツキも美しいのですが、平地にもいる種です。



シロシユウシホシテントウ

ハエ目・ハチ目
 ハエ目とてにかく多かったのはネウスオドリバエでした。写真のキアシハラナガハナアブは初見だと思ったのに、自然遊学館に自分が採集した1個体がありました。先月よりもアリ類の活動が盛んになり、クロオオアリやムネアカオオアリなど、10種を確認しました。



キアシハラナガハナアブ

その他
 ハルゼミは5個体の鳴き声を聞きました。カメムシ類では、セアカツノカメムシとチャバネアオカメムシを確認しました。バッタ目は、右の写真のハネナシコロギス幼虫、フキバッタの仲間の幼虫、キリギリス幼虫を確認しました。ハネナシコロギスは幼虫で越冬します。



ハネナシコロギス幼虫

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2020年6月）

2020年6月4日 天候：晴れ 調査者1名
 ウツギはほとんどが蕾で、少しだけ開花していました。カキノハグサの花を3株、見ました。右の写真は、ヤマガラ若鳥が親に餌をねだっているところです。餌の多くはガ類の幼虫だと思います。この時期、ガの幼虫も大変です。



チョウ目 チョウ類10種
 チョウ類は、オナガアゲハ、ジャコウアゲハ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、クロヒカゲ、ヒカゲチョウ、ツマグロヒョウモン、テングチョウ（群飛）、アサギマダラを確認しました。ガ類はマドガやキンモンガのほか、数種の幼虫を確認しました。



オカモトトゲダシャク幼虫

バッタ目など
 ナキイナゴが2個体だけ鳴いていました。例年より少ないと思います。ハネナシコロギスの幼虫は先月に続き、ミヤコザサの群落で確認しました。個体数が多いのは、フキバッタの仲間の幼虫で、おそらくヤマトフキバッタでしょう。エダナナフシの幼虫が木柵にいました。



エダナナフシ幼虫

コウチュウ目
 これと言った種はなく、平地にもいる常連の種がほとんどでした。ヤマトオサムシ、マルムネジョウカイ、ニセクロホシテントウゴミムシダマシ（何という長い和名なんでしょうか）、アオハムシダマシ、リンゴコフキソウムシなどを記しておくだけにします。



マルムネジョウカイ

その他
 ハルゼミは16個体の鳴き声を聞きました。その他のカメムシ目は先月に続き、なぜか少ない目です。ハチ目もアリ類ばかり9種だけ。マイナーな目では、カゲロウ目のガガンボカゲロウ、アミメカゲロウ目のソバハヒメカゲロウ、シリアゲムシ目のヤマトシリアゲを確認しました。



ガガンボカゲロウ

付図1（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2020年4月）

付図2（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2020年5月）

付図3（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2020年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2020年7月）

2020年7月16日 天候：くもり 調査者1名
 今年の梅雨は長く、その合間の曇りの日です。思いのほかキノコ類が少なく、それでもスジチャダイゴケ（右の写真）を見つけたのは収穫でした。樹々の葉が茂った林内は少し暗くなり、キビタキの鳴き声がよく響いていました。



チョウ目 チョウ類4種
 チョウ類は、モンキアゲハ、スジグロシロチョウ、サカハチチョウ、ツマグロヒョウモンだけを確認しました。気温が低めなこと、花が少ないことに加えて、数日前の暴風も影響したのかもしれませんが、ガ類では、ウスギヌカギバやフタスジツツリガなどを確認しました。



バッタ目など
 ナキイナゴが1♂だけ鳴いていて、♀の幼虫もいました。ヤマトフキバッタとツマグロバッタも、幼虫と成虫を確認しました。ヤブキリとホソクビツムシは鳴き声で各1♂を、ヒメギスは姿で確認しました。その他、オオカマキリ幼虫とエダナフシ幼虫を確認しました。



カメムシ目
 エソゼミが3♂鳴いていました。雲が多くなった時にヒグラシが1♂鳴き出しました。クルマヒロズヨコバイは当館に標本がない種ですが、撮影だけで採集できませんでした。その他、トゲカメムシ、トホシカメムシ、モンキツノカメムシ、オオヘリカメムシ幼虫などを確認しました。



コウチュウ目
 セタカテントウダマシを4年ぶりに確認しました。オオトラフコガネとツヤスジコガネは、それほど見ないコガネムシです。ニセクロホシテントウゴミムシダマシを30個体ほど見ました。その他、スジクワガタ、カタアカベニボタル、シラホシカミキリなどを確認しました。



「和泉葛城山」昆虫調査速報（2020年8月）

2020年8月7日 天候：くもり 調査者1名
 下界は35℃の猛暑日であっても、山頂は正午で24℃前後です。でもやや湿気がありました。林内はかなり暗くなりました。その中で、ホトトギスの鳴き声がよく聞こえます。拾った大きな羽根は、トビの初列風切でした。



チョウ目 チョウ類11種
 チョウ類は、クロアゲハ、モンキアゲハ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、クロヒカゲ、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、ウラギンシジミ、チャバナセセリ、コチャバナセセリ、キマダラセセリを確認しました。個体数が断トツで多かったのはクロヒカゲです。



トンボ目 5種
 ミヤマアカネを8月に確認するのは定番となりました。ほぼ成熟したオスでした。ウスバキトンボの群飛が見られました。100個体はいたと思います。開けた道をオニヤンマ1個体が往復していました。その他、シオカラトンボとオオシオカラトンボを確認しました。



バッタ目
 ナキイナゴはシーズンの最後だと思います。2♂だけが鳴いていました。ツマグロバッタは個体数が多く、ヤマトフキバッタとヒロハネヒババッタは成虫がこれから増えると思います。その他、ヒメギスを確認しました。キリギリス科が1種というのは寂しい結果です。



カメムシ目
 エソゼミが多く鳴いていました。でも、なかなか姿を見ることができません。次に多かったのがニイニイゼミで、ミンミンゼミとヒグラシは1個体だけでした。トゲカメムシとエサキモンキツノカメムシぐらいが書いておくべき種で、その他、常連のものを少しだけ確認しました。



「和泉葛城山」昆虫調査速報（2020年9月）

2020年9月15日 天候：晴れ 調査者1名
 風は涼しくなり、クサヒバリの鳴き声や、林縁のススキの穂が、秋を演出してくれます。トンボは群飛しているウスバキトンボだけでした。自然遊学館の鳥調査班3人、田中正視先生のフナ調査木選定班4人に合いました。



チョウ目 チョウ類12種
 チョウ類は、ジャコウアゲハ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ヒカゲチョウ、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、アサギマダラ、テングチョウ、ツバメシジミ、ダイミョウセセリを確認しました。右の写真は、種名が分からないイラガ科の幼虫です。



バッタ目とカマキリ目
 ヒロハネヒババッタ、ツマグロバッタ、ヤマトフキバッタをよく見ました。鳴き声で確認したものは、樹上のクサヒバリ、アオマツムシ、草上のホソクビツムシ、地面のモリオカメコオロギとマダラスズです。カマキリ目は、オオカマキリ、1幼虫、1♂、1♀を確認しました。



カメムシ目
 セミ類ではとにかくツクツクボウシが多く、エソゼミは3個体、ミンミンゼミは1個体の鳴き声を聞いただけでした。その他、ヨコバイ亜目はツマグロオオヨコバイだけ、カメムシ亜目はトゲカメムシ、ヒメクモヘリカメムシ、ヘクソカスラグンバイだけという寂しい結果でした。



ハチ目
 咲き始めたヨシノアザミに吸蜜に来たトラマルハナバチを多く見ました。キンケハラナガツチバチも少し来ていました。その他、アカスジチュウレンジ、ムネアカオオアリ、シワクシケアリ、アメイロアリ、ニホンミツバチを確認しました。



付図4（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2020年7月）
 付図5（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2020年8月）
 付図6（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2020年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2020年10月）

2020年10月6日 天候：晴れ 調査者1名
 一気に寒くなり、雨合羽を着ました。トンボもまったく見ず、セミの鳴き声もせず、秋は短かったようです。右の画像はブナの立ち枯れ木に生えたヌメリツバタケで、統合される前は、ヌメリツバタケモドキと呼ばれていた方です。



チョウ目 チョウ類6種
 チョウ類は、キタキチョウ、クロヒカゲ、ミドリヒョウモン、テングチョウ、ツバメシジミ、ヤマトシジミを確認しました。ガ類では、クロホウジャクとホシホウジャクが、ヨシノアザミから吸蜜していました。ヒメシロモンドクガの幼虫がイタドリを摂食していました。



ヒメシロモンドクガ幼虫

カメムシ目
 一番個体数が多かったのはクサギカメムシ（幼虫も）で、久しぶりに確認できたのは、キバラヘリカメムシ（幼虫も）とアカスジシカメムシの幼虫です。その他、セアカツノカメムシ、チャバネアオカメムシ、ハリカメムシを確認しました。



キバラヘリカメムシ幼虫

ハチ目
 クロマルハナバチとトラマルハナバチがヨシノアザミから吸蜜していました。その他、種名が分からないハナバチが1種いました。キイロスズメバチ、オオモンクロベッコウのほか、ムネアカオオアリ、ハヤシクロヤマアリなど6種のアリを確認しました。



クロマルハナバチ

その他
 バッタ類は、ヒロバネヒナバッタ、ヤマトフキバッタ、ツマグロバッタなど常連のものばかりでした。樹上から聞こえるクサビバリの鳴き声は弱々しいものでした。コウチュウ目はわずかでしたが、ムモンオオハナノミは、自然遊学館に標本がない種でした。



ヒロバネヒナバッタ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2020年11月）

2020年11月6日 天候：晴れ 調査者1名
 ブナ林を全体的に見れば紅葉は昨年よりも早く、例えば、ウリハダカエデは昨年よりも赤色が鮮やかですが、場所によっては紅葉が遅い場所があるのが興味深いです。昆虫調査は、寂しい結果に終わりました。



チョウ目 チョウ類4種
 チョウ類は、キタテハ、ツマグロヒョウモン、テングチョウ、ヤマトシジミを確認しました。ヤマトシジミは、南向き斜面に多数、集まっていました。テングチョウは大坂府側から和歌山県側に横切って飛翔していく個体をチラホラ見ました。



テングチョウ

バッタ目
 モリオカメコオロギ、クサビバリ、マダラスズ、カンタン、ヒロバネヒナバッタの鳴き声が聞こえましたが、いずれも弱々しいものでした。10個体ほど鳴き声を聞いたマダラスズ以外は、それぞれ1個体だけの確認です。ハヤシウマとツチイナコは幼虫での確認です。



ハヤシウマ幼虫

カメムシ目
 ミヤマアワフキ、オトビスサガメ、トホシカメムシ、セアカツノカメムシ、クサギカメムシ、ヒメトゲハリカメムシをそれぞれ1個体ずつ確認しました。ミヤマアワフキは山頂付近では普通種なのに、11月に初めて見たのは意外な結果です。



トホシカメムシ

ハエ目・ハチ目
 ハエ目では、クロヒラタアブ属、ホソヒラタアブ、Lucilia 属の一種（キンバエの仲間）、セシハリバエを確認しました。ハチ目では、クロヤマアリ、シワクシクアリ、アメイロアリの3種のアリだけを確認しました。来月は、もっと寂しい結果になると思います。



セシハリバエ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2020年12月）

2020年12月1日 天候：晴れ／くもり 調査者1名
 鳥調査のメンバー2人と一緒に回りました。先月は紅葉を楽しめたのに、今月は既に落葉していました。12月の調査では、昆虫がまったく確認されない年もありますが、今年は少しだけ見ることができました。



チョウ目 チョウ類1種
 チョウ類は、ヤマトシジミを2個体だけ確認しました。ガ類は、ナカオビアキナミジャクを2個体と、右の画像のミドリアキナミジャクを1個体確認しました。写真では、翅の地色が白色に見えますが、実際には緑色の光沢のある鱗粉に覆われています。



ミドリアキナミジャク

その他の昆虫
 バッタ目では、南向きの日当たりのよい林縁で、ヒロバネヒナバッタのオスが2個体だけ鳴いていました。林内では、コアリガタハネカクシ、Bibio属のケバエ、キノコバエ科の一種を1個体ずつ確認しました。



ヒロバネヒナバッタ

鳥類
 コゲラがアカマツの傾いた幹の下側で盛んに餌さがしをしていました。ヤマガラは群れて、アカマツの松かさの中にある実を摂食していました。その他、ウソの鳴き声を何回か聞き、シジュウカラ、ヒヨドリ、ハシボソガラスは、姿を確認しました。



コゲラ

植物
 南側の斜面の草原では、スキの穂が、逆光で輝いて見えました。林内では、ムロウマムシグサとミヤマシキミの赤い実が少し成っていました。ヤドリギは実を付ける時期ですが、鳥は来ていませんでした。なぜか、季節外れのタチツボスミレが1株だけ咲いていました。



ミヤマシキミの実

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2020年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2020年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2020年12月）